

特集「ワークスタイル変革と情報システム」の発行に寄せて

星 恒 夫

2019年12月に中国・武漢市で発生し、世界に広がっていったと言われる新型コロナウイルスは、私たちのワークスタイルを一変させた。

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」の経験と教訓などをつうじて、また「オリパラ」による通勤困難な事態を想定して、弊社グループにおいても在宅勤務やサテライトオフィスの導入、モバイルワーキングなどのワークスタイル変革に次々と取り組んできた。そしてテレワークを推進するために、クラウドサービス利用へのシフトやサイバーセキュリティ対策など、情報システムの基盤強化をはかってきた。このような取り組みは、新型コロナウイルスの流行によって一気に、想定を上回るスピードと規模感で、私たち企業に広まっている。

ワークスタイル変革によって、働く者の価値観もまた変わろうとしている。働く場所を自ら選べるようになり、企業の所在地にこだわらないといった仕事選びの要素も多様化していくだろう。またマネジメントスタイルやマネジメント能力にも変化が求められるだろう。一例として、ワークスペースが仮想空間にシフトしたことで、「脱・時間管理」や、モチベーションマネジメントの更なる重要性なども指摘されている。もたらされる変化をあげれば枚挙にいとまがないが、これからの時代に求められる情報システムの在り方のひとつとして考えられることは、安全で安心して利用できるシステムであろう。

この1年間でテレワークを支えるコミュニケーションツールや、業務効率を低下させないための情報システムの在るべき像と課題が少しずつ明らかになってきた。繰り返しになるが、どの企業におかれても、テレワーク環境を安全に安心して利用できる、業務効率を低下させない情報システムの実現を目指して、情報システムの基盤強化に取り組んでいる。スマートデバイスから利用できる情報システムを増やすこと、データ漏洩防止などのセキュリティ対策、テレワーク環境からもアクセスできるクラウドサービスへのシフトなどに取り組んできたが、こうした動向はこれからも進化し続けるに違いない。

本特集号では、弊社グループがワークスタイル変革のために取り組んできた情報システムの基盤強化の事例を紹介している。多くの企業におかれても、ワークスタイル変革を支える情報システム構築のヒントになれば幸いである。そして働く者の期待に応えられるような情報システムに進化していくことを期待したい。

(執行役員 CIO)